

HDM推進会（第 10回）／ごみゼロネット推進会（第 32回）議事

録

開催日： 2010年(H22年)12月 6日(月)10:00～12:00

場所： ウエスト

出席者： 大橋、杉本、市原、平林、加藤、加賀谷、川村、多田、桐生（作成）

議題：

1. ごみ減量審議会の「23年度一般廃棄物処理計画案」にHDM実証試験実施の言及なし（加藤）

- 加藤氏は「ごみ減量審議会」の委員である。「23年度一般廃棄物処理計画案」はごみ対策課から原案が出されて、委員会の審議を経て23年度計画になる。
- 11/25に行われた審議会で原案が出され、簡単に説明されたが、時間の関係で内容の審議には入れなかった。来年度に新たに加わる施策は「2. ごみの減量目標及び達成に向けた施策」の(2)「ごみ減量達成に向けた施策」の「①新たに実施する施策」として「ア. 水切り実験市民モニター……」と「ごみ分別及びリサイクルを指導するアドバイザー制度を導入……」の2件である。ここにはHDM実証試験が挙がっていない。ここに挙がらなければ、来年度に実施されることはない。
- 「④実施に向けて検討する施策」は「ア. ごみ減量化に向けた、新たな実証実験の実施に向けた取り組みを行うこと。」とあるだけで、「HDM実証試験」という形での明言すら避けている。過去0年間で「④実施に向けて検討する施策」に挙がって当該年度に実施された案件は1件もない。
- ごみ減量審議会の「23年度一般廃棄物処理計画」に記載された案件だけが、その年度に実施される。このままでは、「23年度一般廃棄物処理計画」に挙げられていないのを根拠に、行政はHDM実証試験を却下する心づもりとしか見えない。
- 加藤氏は次回1/26の会議の意見書の中の1項目として、「①新たに実施する施策」の中にHDM実証試験を加えるよう提案する。この審議会は各方面から出される意見を真剣に討議し、屢々大きく方向性が変わった実績があるから、当会からも「意見書」を会長に提出して圧力を掛けて欲しい。公開の審議会であるから、傍聴に押しかけるのも一つの手段である。審議会の答申は2/Eまでに出る。

本件について侃々諤々の討議があり、結論として次のように決まった。

- (1) 平林氏が「意見書」を作成し、ごみ減量審議会会長に提出する。
- (2) 「意見書」には「HDM実証試験」に関する行政との折衝の経緯と「①新たに実施する施策」の中に「HDM実証試験」を加えることを要請する。

2. 「HDM実証試験」プロジェクトの発足（大橋）

「行政とHDM推進会の打合せ」は5回に及んだが、深澤 B、柿崎 Kが議会等で多忙なため、実務レベルで推進するために、行政側は鈴木 KHら3名を出し、プロジェクトチーム方式で行う。12/14の会合は従来方式の最後の会合になり、深澤 B、柿崎 Kも出る。以後はプロジェクトメンバーで開催頻度を上げて推進する。

- (1) 当会のリーダーは大橋氏。
- (2) 当会のプロジェクトチームメンバーは固定しない。5～6名が好適であろう。

3. 12/14「行政とHDM推進会の打合せ」に提出すべき議題（全員）

- (1) 11/25に行政から出した「23年度一般廃棄物処理計画案」に何故「HDM実証試験」が反映されていないのか、納得できる説明を求める。
- (2) 行政側の「HDM実証試験」の設備仕様の確定（建物仕様、脱臭装置仕様等を見積もりできるように）
- (3) 行政側の「HDM実証試験」の確定したコスト計算を求める。
- (4) 「HDM実証試験」の実行計画立案（建築確認申請、地元住民への説明会、予算処置の方法、その他）を早急に実行すること。

4. 12 / 13 「ごみ特」議題運営について（市原、加藤、平林、大橋）

- 渡辺大三氏が売りに出ている大和自動車敷地をごみ処理場のために市が購入すべしという内容の議案を多数の議案に分割して、提出する予定である。これをやられたら、大和自動車の案件だけで1日掛かりになる。「HDM実証試験」の議案を検討して貰えなくなる。
- 事前に委員長に各方面から「意見書」を出しておき、大和自動車の案件の前に検討して貰うよう、働きかける。（12/7に大橋氏が作成、委員長と委員各位に拝送した）

5. その他の事項

- 府中市は「拠点収集⇒個別収集」「収集の有料化」を行ったところ、一挙に収集量が25%、年間1万トンのべルで低減した。小金井市等の周辺都市住民が府中市に捨てに来ていた分が大きかったようである。周辺から捨てに来た人が、収集拠点がなくなったために、腹いせに道路にごみをぶちまけて行くことへの対策に頭を悩ませているという。この問題に関する府中市の小金井市に対する印象は非常に悪い。（加藤）
- 久喜市は20トンの日のHDM施設3箇所建設計画は、予定通りの進展をしていない。マンション住民が既に利用している団地毎の生ごみ処理設備からHDMへの乗り換えのメリットが見出せないために協力的でなく、対象世帯数を十分に増やせないためである。（加藤）
- 「きらめき、ひらめき環境博」でのHDM展示小間の位置は、初日の12/4(土)には受付に近かったために約30人の参観者が来てくれた。12/5(日)には受付が室外に移動し、参観者は数人にまで減少した。加藤氏のアドバイスで外に出し、加藤氏にコードリールの手配までしていただき、何とか挽回できた。（杉本）……HDM展示装置は悪臭があった。下部から空気を送らないために、好気性の酸化分解ではなく、嫌気性の腐敗が発生していたようだ。反ってイメージダウンになったかも知れない。（大橋、平林、加藤）……スタッフを除く純粹の参観者は12/4は約150名、12/5は約250名で、過去の環境博に比べて少ない訳ではない。（多田）

以

上

次回打合せ：ウエスト／1月10日（月）10：00～12：00



